



Contents

- 1 学長年頭所感
- 2 教員採用試験結果
- 3 歯学部相互交流プログラム、歯学部公開講座
- 4 パラリンピックメダリストによる講演会 他
- 5 第30回明海祭、浦安キャンパス公開講座
- 6 あけみ英語村、英米語学科奨学海外研修報告会
- 7 明海スポーツ
- 8 第47回けやき祭開催 他

学長年頭所感

日々の改革と教育成果の向上

学長 安井利一

2018年戌年の新年を迎えました。明海大学の学生と教職員の皆様、そして同窓会、教育後援会をはじめとして明海大学を支援してくださる多くの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

さて、大学は自己点検自己評価を中心として「内部質保証」の確立を図り、教育成果を可視化することが重要です。大学を取りまく環境は大きく変化を続けており、2018年度からは、認証評価機関の評価内容も変更されてくることになります。

社会の変化に敏感であることは教



安井利一学長

職員にとっては基本的資質と言うことができます。

私たち明海大学は、教育の内容に建学の精神の社会性、創造性、合理性という3つの基本軸をしっかりと位置づけた上で、学生や保護者の皆様の期待に応えていかなければなりません。学生や保護者の皆様と良好なコミュニケーションをとりながら、学生の夢の実現に対して、教員と職員と保護者が一体となって支援すべきであり、それが私の考える基本的な教育姿勢です。

これまで何回も教職員には訴え続けていることですが、明海大学の教育の質保証とその可視化には大きく2つの方向性があります。

一つは浦安キャンパスでは就職状況であり、歯学部では歯科医師国家試験合格状況です。浦安キャンパスで学修した成果を社会に還元するには、誰もがしっかりとした職業を持つことが大切ですし、かつ企業や社会が希求する人材を本学に求めることが教育の成果というものです。

一昨年は就職率90%、昨年は95%に到達しており、この就職率の向上に対しては保護者の皆様の満足度を得ることができました。今年も、続け

て高い就職率をあげられるようにキャリアサポートセンターを中心にして、教職員が一人ひとりの学生を大切に、そして近くに置いてお世話をするという方針を貫く覚悟です。

もう一つの教育の質保証は、卒業の前に、明海大学で学修すると子どもたちがこのように変化するというように、教育力を子どもたちの資質能力の向上度合で評価することです。言うまでもなく、この評価には外部試験等を用いなければなりません。外国語学部では、日本語、英米語そして中国語学科が外部の語学試験を利用して、子どもたちに対する教育力を示すことにしており、そしてホスピタリティ・ツーリズム学部ではTOEIC®やTOEFL(iBT)®を評価基準にしています。同じように、経済学部においては、経済学検定や日商簿記試験を利用した教育の質保証を明示することになります。不動産学部では、宅地建物取引士だけではなく、さらに不動産鑑定士を目指すような進展が望まれます。教員の教育力があるかないかはすぐにわかります。明海大学はアドミッション・ポリシーに基づいて、しっかりと入試制度を持っており、本学で学ぶことで資質能力の向上を図ることのできる子どもたちを入学させています。したがって、教育の成果は教員の教育力に影響されるわけです。教員の腕の見せどころということになります。 【2面へ続く】

【1面から続く】ホスピタリティ・ツーリズム学部においては、2017年の4月から新たにグローバル・マネジメントメジャー（GMM）を設置しました。このメジャーは、これからの日本のホスピタリティ産業を企画運営していく高度の職業人を養成するために、多くの企業の待望論を実現するために創設したものです。ホスピタリティ・ツーリズムメジャー共々学生の成長を楽しみにしています。

歯学部においては新カリキュラムが進行するなか、コアカリキュラムや歯科医師国家試験出題基準の改訂に基づく学修内容の確認、そして宮

田侑相談役に大変なご支援をいただき完成したシラバススティングシステムの導入など主に教育面で新たな取り組みがなされてまいりました。また、分野別認証評価の方向や臨床実習終了時のOSCEの方向性など大きな課題も目前に提示されています。また、高度で優れた臨床の知識と技術を兼ね備えたスーパードクターを目指す大学院「高度口腔臨床科学コース」も、世界に誇る「生涯研修（CEプログラム）」と合同での展開を図っており、歯科医師臨床施設として評価の高いPDIとの連携も進めていきます。さらに、体育会・文化会活動においても、優秀な監督・コーチの下、国内外での活躍を

目指します。また、研究活動においても倫理性を持って推進していきます。医療においては歯学部の附属病院やPDIでの患者満足度の向上を図ります。また、別科日本語研修課程とアカデミック日本語の教育課程を通じて、グローバル社会を支える優秀な留学生の育成にも力を注ぎます。

浦安キャンパスも坂戸キャンパスも、とにかく教育の成果を可視化すること、研究の成果を可視化すること、そして高度の歯科医療を提供することに専念していく所存です。教職員全員の力を結集するとともに、教職員一人ひとりが素晴らしい年になるよう努力いたします。

平成29年度実施 教員採用試験結果

平成29年度に行われた教員採用試験（平成30年度採用）に、6人の学生が合格した。本学では、1990年から外国語学部において中学校および高等学校の国語、英語、中国語の教員免許状の取得ができる教職課程を設置して教員養成に力を入れ、多くの優れた教員を社会に送り出してきた。こうした取り組みをさらに推進するため、2016年4月から新たに「教職課程センター」を設置し、免許状の取得に必要な教職課程の履修、教育実習、教

教員採用試験に6人が合格!

員採用試験、赴任後に求められる授業実践力など、教職に関するさまざまな課題をトータルにサポートしている。

東京都教員採用試験に合格した外国語学部英米語学科の大塚桃加さんから「先生方の的確なご指導と両親や仲間の支えがあったおかげで、子どもの時からの教員になりたいという夢を実現することができた」との喜びの感想が聞かれた。

今回の結果を受けて、高野敬三教職課程センター長は、「教職課程セン

ターでは、3月に実施した2泊3日の勝浦勉強合宿をキックオフとして、4月からは、センターの教職員が一丸となって面接指導、論文指導、教職教養や専門教養などの指導を教員採用試験直前まで実施してきた。併せて、二次試験対策を8月の夏休み中に実施して、最終合格までの道筋をつける取り組みを展開してきた。こうした取り組みにより、学生が教員になりたいという強い信念のもと、自ら進んで自分の進路を開拓したものと言える。来年度は、これまで以上の結果を出していきたい」と話した。

明海大学では、今後も優秀な教員を世に送るための努力を続けていく。

平成29年度実施教員採用試験 （二次試験）合格者数〔自治体別〕

埼玉県	(英語)	1人
	(英語)	2人
千葉県	(国語)	1人
	(小学校全科)	1人
東京都	(英語)	1人
計		6人



教職アゴラ(広場)での学修の様子

歯学部相互 交流プログラム

北京大学口腔医学院の研修生が来学

歯学部では、「国際的な歯科医師を育成する環境」を整え、なかでも海外協定校との相互交流に力を入れており、交換研修プログラムはその大きな特色のひとつ。在学中に諸外国の歯科医学の現状を学ぶことができる海外研修制度を設けるとともに、研修に参加した学生が海外から研修生を迎え入れることで、継続的かつ相互的な交流が実現できるプログラムとなっている。

11月23日から26日にかけては中国の北京大学口腔医学院から研修生9人とインストラクター1人を、26日から29日にかけてはイタリアのシエナ大学から研修生2人とインストラクター1人を受け入れた。

24日に坂戸キャンパスを訪れた北京大学口腔医学院の研修生らは、本学の国際交流や教育・研究等に関する特別講義を受講した後、付属病院や学内の施設見学を行い、日本の歯

科医療技術の最新事情を学んだ。昼には教職員らによる歓迎パーティーが催され、和やかな雰囲気での歓談する姿が見られた。研修生らの世話役は、今年の8月に北京大学口腔医学院での海外研修に参加した本学在学学生5人が務め、互いの国の歯科事情

について情報交換するなど、学生間の交流も活発に行われた。研修生からは、「今回の研修でたくさんのことを学び素晴らしい経験ができた」「明海大学の皆さんの温かい歓迎に心から感謝します」といった声が聞かれ、実り多い研修となった。



本学在学学生との交流をさらに深めた北京大学口腔医学院の研修生ら

歯学部 公開講座

「胃の調子の悪い方へ—胸焼け・胃もたれはなぜ起きる?—」

坂戸キャンパスでは、主に健康や医療を題材とした公開講座を毎年開催している。

今年度は、10月21日に埼玉医科大学総合医療センター副院長の屋嘉比康治氏が「胃の調子の悪い方へ—胸

焼け・胃もたれはなぜ起きる?—」をテーマに講演し、会場には市民ら約100人が詰めかけて熱心に耳を傾けた。

屋嘉比氏は胃の役割、胃の調子の

悪い時に生じるさまざまな症状の説明から、とくに逆流性食道炎について具体的な症状を交えながら、一つひとつ丁寧に解説した。

講演の最後に行われた質疑応答では、質問者自身が胃の調子について不安に思っていることの質問が多く寄せられ、屋嘉比氏のわかりやすい丁寧な回答にさらに高い関心が集まった。

来場者からは「大変参考になった。日常生活でとにかくストレスを溜めないことが大事」「胃の不調が長く続いたら、とにかく病院に行き検査を受ける」などといった感想が聞かれ、大好評のうちに終了した。



講演する屋嘉比氏と話に聞き入る参加者たち

パラリンピックメダリストによる講演会

10月26日、浦安キャンパスでリオデジャネイロパラリンピック走幅跳(T42クラス)金メダリストのハイナリッヒ・ポポフ選手(ドイツ)と同競技銀メダリスト、400メートルリレー(T42クラス)銅メダリストの山本篤選手による講演会が開催された。昨年好評を博した講演で、今回も会場を埋めつくすほどの来場があった。

ポポフ選手の講演では、競技においても人生においても、いかにポジティブに生きるかが大切との話があった。参加した在学生からポジティブシンキングの保ち方について質問されると「常にあきらめない気持ちと競い合うことや、小さな目標を定めて一つずつ達成していくことなどの習慣がポジティブな感情につなが

る」とアドバイスした。

続いて、壇上にのぼった山本選手は、10月からプロ契約を結びスノーボードに挑戦していることに触れ、「自分の好きなことであれば、どれほど過酷なトレーニングでも乗り越えることができる。皆さんも『自分なら絶対にできる』という気持ちで常に挑戦を続けてほしい」と話した。

参加した在学生らは、世界で

活躍する両選手の貴重な話を熱心に聞いており、英語で質問のやり取りをする様子も見られた。講演後は花束の贈呈と参加者との握手や写真撮影が行われ、講演会は大盛況のうちに幕を閉じた。



ポポフ選手(左)と山本選手(右)

ホスピタリティ・ツーリズム学部 社長講座

本学卒業生のワンダーテーブル社長が講演

ホテルや旅行、エアライン業界などに高い就職率を誇るホスピタリティ・ツーリズム学部(以下、HT学部)では、企業が求める人材の育成を目的に、実践教育に力を入れている。

11月9日に本学経済学部の卒業生で、国内外115店舗のレストランを展



講演するワンダーテーブルの秋元社長

開する(株)ワンダーテーブル代表取締役社長の秋元巳智雄氏による講義が行われた。この講義は、HT学部の授業科目「特別講義(通称：社長講座)」の一つで、日本のホスピタリティ・ツーリズム業界を代表する企業の経営トップを招き、オムニバス形式で業界の動向や仕事に対する考え方を学ぶことができる。

秋元社長は「ワンダーテーブルのフィロソフィ経営とホスピタリティ」をテーマに、自社が掲げる理念について説明し、「VIPのお客様に対し

でも、一般のお客様に対しても、相手の立場に立ってその人のために接客することがホスピタリティ。サービスとホスピタリティの違いを認識し、お客様の心に残る気持ちのこもったおもてなしをすることが大切」と話した。最後には、「大学の先輩として気軽に何でも質問してほしい」と、秋元社長から学生全員に名刺が手渡されるなど、一流企業の社長でありながらも卒業生としての身近さを感じられる、和やかな講義となった。

今後の講義予定

日程	講師(敬称略)	企業名・役職名
1月11日	小田與之彦	(株)加賀屋 代表取締役社長
1月18日	小林哲也	(株)帝国ホテル 代表取締役会長 HT 学部客員教授

浦安キャンパス

第30回明海祭

浦安キャンパス学園祭「明海祭」が11月4日、5日の2日間にわたり開催された。第30回の節目を迎えた今回のテーマは「Triangle」。このテーマには「来場してくださる地域の方に笑顔を届ける」「学生に学生生活での一番の思い出を作ってもらおう」「学園祭を通して大学を盛り上げていく」という3つの想いを三角形の頂点に見立てて、明海祭で地域・学生・大学の3者を繋いでいきたいという気持ちが込められている。

ダンスサークルのパフォーマンスでオープニングセレモニーがスタートし、吹奏楽部、軽音楽部、ジャズオーケストラ部によるステージ発表や、留学生連合会による各国料理の販売など、さまざまな学生団体による発表・出店で盛り上がりを見せた。なかでも、吹奏楽部は、アニメソングメドレーなど親しみのある曲を

中心に演奏し、音楽に合わせて手拍子をする子どもたちの楽しそうな姿が見られた。

また、声優の伊藤かな恵さんによるトークショー、アイドルグループ「Juice=Juice」によるコンサート、お笑い芸人「パンサー」らによるライブなど、毎年大人気の企画には、地域の方々をはじめとする多くの参加があ

った。

学園祭を終えて、学園祭実行委員長の岩倉理久さん（経済学科3年）は、「今年も地域の方々にご協力いただき、無事に明海祭を成功させることができました。ここまで一緒に活動したメンバー、携わってくれた企業の方々や参加団体に感謝の気持ちでいっぱいです」と話した。



子どもたちを楽しませた吹奏楽部の演奏

浦安キャンパス
公開講座人生100年時代を生きる。
—上手に生きるためのゴールデンルール—

11月4日、浦安キャンパスで2017年度公開講座「人生100年時代を生きる。—上手に生きるためのゴールデンルール—」が開催された。

講師には経済評論家で㈱マイベンチマーク代表取締役の山崎元氏と、ファイナンシャルプランナーで㈱生活設計塾クルー取締役の深田

晶恵氏をお招きして、長寿化に備えた資金計画や定年後の生活設計に関する講演を行った。

山崎氏の講演では、平均寿命の伸びをデータで示し、そこから逆算して求められる現役時代

の貯蓄額が提示された。また、資産運用は「安全かつ効率よくお金を増やすことであり、これを満たさない運用方法はNGである」と解説し、推奨される運用商品と、一方で手を出してはいけない商品の具体例が挙げられた。

深田氏の講演は、定年退職後の生活のなかでも年金、住宅ローン、保険といった多くの人にとって興味・関心が高いテーマに焦点があてられた。「退職を機に保険から卒業する」など、これまでの定説とは異なった生活設計が紹介された。

会場にはさまざまな年代の方が訪れていたが、みな真剣な表情で講演に聴き入っていた。明海大学では今後もさまざまなテーマで公開講座を実施し、研究成果の発表や地域貢献を行っていく。



パネルディスカッションを行う山崎氏（左）と深田氏

あけみ英語村

16の国・地域の留学生在が小学生と交流

11月2日、足立区との連携協力第3弾として、浦安キャンパスで「明海大学あけみ英語村～小学生異文化交流プロジェクト～」を西新井小学校の5年生87人を対象に実施した。

本学からは、カナダ・ギリシャ・中国・ベトナム・ネパールなど16の国と地域の外国人留学生74人と日本人学生38人、安井利一学長、高野敬三地域学校教育センター長、複言語・複文化教育センターのPatrizia Hayashi教授らが参加し、「ネイティ

ブ教員による大学授業体験」「各国遊び体験」「英語と留学生の母語による読み聞かせ」などの活動を英語で行った。

今回のプロジェクトは、将来の我が国を担う子どもたちに、小学生時代から英語を中心とした言語や文化に触れることを通じて、グローバルな精神や感性を醸成することを目的としている。

当初、子どもたちは緊張していたが、外国人留学生らと昼食を共にする

頃にはリラックスした表情となり、英語によるコミュニケーションや活動を積極的に行った。足立区からは、石川義夫副区長や須原愛記学力定着

対策室長らが参加し、子どもたちの姿を熱心に見守っていた。

参加した子どもたちからは、「学校で勉強している英語がいろんな国の人に通じてうれしい」「外国語をもっと勉強したいと思った」「外国に行ってみたくなった」などの声が寄せられた。

足立区とは、2017年1月に連携協力に関する基本協定を締結し、これまで本学外国人留学生と中学生との交流会を2回実施した。第1回(2017年2月10日)は竹の塚中学校、第2回(2017年9月12日)は第五中学校で行った。この取り組みにより、生徒たちの英語学習に対する興味・関心が高まるとともに、異文化理解が深まるなど、高い教育成果を上げることができた。

明海大学は、今後も足立区と連携したさまざまな取り組みを通じて、地域学校教育の発展に貢献していく。



英語と留学生の母語による読み聞かせを楽しむ小学生達

英米語学科奨学海外研修報告会

現地での充実した体験を報告

10月4日と5日に、浦安キャンパスで英米語学科奨学海外研修報告会が行われた。研修に参加した英米語学科の2年生5人、3年生5人が報告を行い、今後の研修に参加予定の学生や海外研修に関心を寄せる学生が集まった。

奨学海外研修は、学科から選ばれた成績優秀者を費用全額大学負担で海外研修に派遣する制度で、報告を行った10人はアメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)での約3週間の研修に参加。現地では、大学の寮に滞在しながらインターナショナルクラスで英語集中研

修を受講した。

報告会では、ディスカッションを中心とした授業やロサンゼルス街に出向く授業など、日本と異なる授業の様子について報告があったほか、これから海外研修への参加を考える学生に向けて「授業でいつも一番に発言することを心がけていた。せっかくの機会を無駄にしないよう、自分のなかで何か目標を決

めて参加してほしい」「さまざまな点において、知識不足を感じた研修だった。海外に行く前に、多くのことに関心を持って知識を広げてほしい」など、実体験に基づくアドバイスが送られた。



UCLAでの研修について話す学生

明海スポーツ

強豪校相手に健闘

体育会公式ホームページ <http://meikai-sports.jp>

体育会空手道部

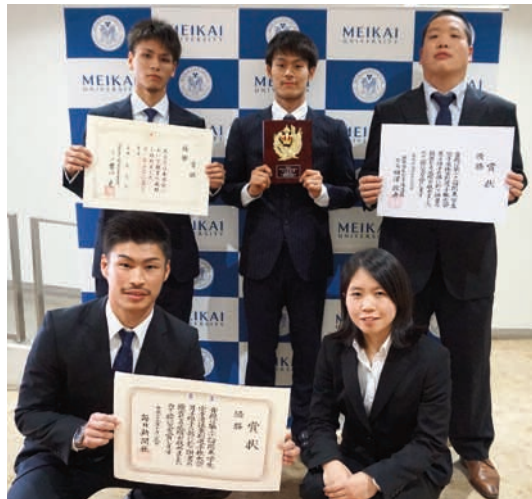
多くの選手が表彰台を飾る

10月29日に開催された第28回関東学生空手道体重別選手権大会（於：慶應義塾大学日吉記念館）で、多くの強豪選手がひしめくなか、本学空手道部が優秀な成績を収めた。男子個人

組手60kg級の優勝をはじめ、同階級3位入賞が2人、84kg超級3位入賞、女子個人組手50kg級ベスト8と、多くの選手が表彰台を飾った。優勝した部長の森龍斗選手（経済学科4年）は、「一昨年は優勝したものの、昨年はベスト8という結果で悔しい思いをした。今年こそは絶対優勝するぞという強い気持ち

ちで大会に挑み、実現することができて嬉しい」と笑顔で喜びを語った。

左上から山田選手、森選手、竹下選手、大塚選手、塚原選手



結果

男子個人組手	
森 龍斗（経済学科4年）	60kg級優勝
大塚虹希（経済学科3年）	60kg級3位
山田隆樹（経済学科3年）	60kg級3位
竹下 誠（経済学科3年）	84kg超級3位
女子個人組手	
塚原茉友（不動産学科1年）	50kg級ベスト8

体育会ヨット部

全日本学生ヨット選手権大会で10位

11月2日から5日にかけて、福井県の若狭沖で第82回全日本学生ヨット選手権大会が開催され、本学体育会ヨット部は24校中総合10位（470級6位、スナイプ級13位）と健闘した。大会は不安定な天候のな

かで行われ、一時は大会不成立も危ぶまれたが、なんとか規定の3レースが成立。しかし、海上コンディションは安定せず、天候が急変した第2レースでは、スタート時での違反をとられる艇が続出した。本学も470

級1艇が違反をとられるなど、苦しいレース展開となった。今大会の結果を受けて國府田由隆監督は、「予想外の天候に翻弄され、厳しい大会だった。目標としていた総合6位入賞を達成できず悔しい。来年度はもっとチーム全体のレベルを上げて、まずは、女子の関東制覇を成し遂げたい」と話した。

体育会サッカー部と歯学部サッカー部が交流試合を開催!

12月3日、浦安キャンパスグラウンドで体育会サッカー部と歯学部サッカー部による「第1回明海交流戦」が行われた。普段は浦安と坂戸の異

なるキャンパスで練習している両部だが、サッカーを通じて共に「明海大学」を盛り上げたいとの思いから、今回の開催に至った。試合後には打ち

解けた様子で、お互いのキャンパスライフについて語り合ったり、写真撮影を行ったりする姿が見られ、部員同士の交流を図る絶好の機会となった。体育会サッカー部の八津川義廣監督は「学生同士でお互いにユニ



サッカーを通じて交流を深めた両キャンパスの部員たち

フォーム交換をしようと冗談を言い合ったり談笑したりと、終始、和やかな雰囲気だった。接点の少ない両キャンパスの学生同士が、サッカーを通じて交流を図れたことは非常に有意義であった」と話した。

坂戸キャンパス

第47回けやき祭開催

10月7日、8日の2日間、坂戸キャンパスで学園祭「けやき祭」が開催された。本学創立とともに歩み、今年で47回目を迎えた「けやき祭」は、「Power of smile～笑顔満祭～」をテーマに、多彩なイベントを催した。

学生による趣向を凝らした模擬店やバスケットボール大会、人気お笑い芸人「尼神インター」「大西ライオン」によるライブなどが行われ、多くの来場者で賑わった。なかでも、毎年

好評のクリニカルリサーチ部による「骨密度測定」には多くの地域住民が参加し、学生との交流を楽しむ姿が見られた。また、当日はオープンキャンパスも同時開催され、入試相談をした後に学園祭を楽しむ受験生の姿もあった。

けやき祭実行委員長の黒木祐汰さん（歯学科4年）は、「地域の方々との交流は、私たち学生にとって非常に貴重な場だった。また、ご来場の方々に歯科に興味を持ってもらい、歯に対する意識を向上してもらうことで、今回のテーマにもあるように、

素敵な笑顔で日々過ごしていけるのではないかと思う。すべての人が歯科医療に気軽に触れ合える、そのような場をけやき祭で提供することができた」と話した。



地域住民との交流を深めるクリニカルリサーチ部の学生

白菊会懇談会

10月7日、坂戸キャンパスで白菊会懇談会が行われ、会員150人および



羽毛田教授による特別講演を熱心に聞く会員

本学教職員らが出席した。白菊会とは、医学と歯学の発展のために、死後、自分の遺体を解剖学の教材として提供することを約束した篤志献体の組織であり、本学創立以来会員数は年々増え続け、現在は延べ1,539人の会員を擁している。

はじめに、過去の献体諸霊に黙祷を捧げた後、中畠裕歯学部長および申基喆教務部長から、白菊会会員の高い志と協力に感謝の言葉が述べられた。

続いて、口腔解剖学分野の羽毛田慈之教授が「骨は生まれ変わる！」をテーマに特別講演を行い、骨の役割、骨の構造、背が伸びる仕組み、そして、骨の代表的な病気である骨粗鬆症の予防について詳しい説明がなされた。

また、会員から、献体までの具体的なスケジュールや解剖実習内容などについて、多くの質問が寄せられた。

最後に、解剖学分野の天野修教授によるあいさつがあり、2017年度白菊会懇談会は閉会した。

2018年度入試日程

詳細は必ず入学試験要項をご確認ください。資料請求は本学公式HPから。
http://www.meikai.ac.jp

浦安キャンパス 外国語学部/経済学部/不動産学部/ホスピタリティ・ツーリズム学部 (HTM)

入試区分	出願期間	試験日	合格発表日
AO入試	3月期 2/26 (月)～3/7 (水)	3/15 (木)	3/16 (金)
一般入試	統一試験 1/5 (金)～1/18 (木)	2/1 (木)	2/9 (金)
	A方式 1/5 (金)～1/18 (木)	2/2 (金)・3 (土)	2/9 (金)
	B方式 2/7 (水)～2/20 (火)	3/1 (木)・2 (金)	3/7 (水)
大学入試センター試験利用入試	A方式 1/5 (金)～1/18 (木)	1/13 (土)・14 (日) 大学入試センター試験	2/9 (金)
	B方式 2/7 (水)～2/20 (火)		3/7 (水)
	C方式 2/26 (月)～3/9 (金)		3/16 (金)
外国人留学生特別入試	C方式 1/18 (木)～1/31 (水)	2/17 (土)	2/22 (木)

※ HTM：ホスピタリティ・ツーリズム メジャー

ホスピタリティ・ツーリズム学部 (GMM) ■お問い合わせ 浦安キャンパス入試事務局 TEL 047-355-5116

入試区分	出願期間	試験日	合格発表日
一般入試	A方式 1/5 (金)～1/18 (木)	1次 2/2 (金)・3 (土)	2/9 (金)
		2次 2/13 (火)	2/15 (木)
	B方式 2/7 (水)～2/20 (火)	1次 3/1 (木)・2 (金)	3/7 (水)
		2次 3/12 (月)	3/14 (水)
大学入試センター試験利用入試	A方式 1/5 (金)～1/18 (木)	1次 1/13 (土)・14 (日) 大学入試センター試験	2/9 (金)
		2次 2/13 (火)	2/15 (木)
	B方式 2/7 (水)～2/20 (火)	1次 1/13 (土)・14 (日) 大学入試センター試験	3/7 (水)
		2次 3/12 (月)	3/14 (水)
	C方式 2/26 (月)～3/9 (金)	1次 1/13 (土)・14 (日) 大学入試センター試験	3/15 (木)
		2次 3/19 (月)	3/22 (木)

※ GMM：グローバル・マネジメント メジャー

坂戸キャンパス 歯学部

■お問い合わせ 歯学部入試事務局 TEL 049-279-2852

入試区分	出願期間	試験日	合格発表日
AO入試	3月期 3/9 (金)～3/15 (木)	3/20 (火)	3/23 (金)
一般入試	A日程 1/9 (火)～1/18 (木)	1/24 (水)	1/30 (火)
	B日程 2/19 (月)～2/27 (火)	3/4 (日)	3/8 (木)
一般入試 (センタープラス方式)	A日程 1/9 (火)～1/18 (木)	1/24 (水)	2/2 (金)
	B日程 2/19 (月)～2/27 (火)	3/4 (日)	3/8 (木)

入試区分	出願期間	試験日	合格発表日
大学入試センター試験利用入試	A日程 1/9 (火)～1/18 (木)	1/13 (土)・14 (日) 大学入試センター試験	1/24 (水) 面接試験
	B日程 2/19 (月)～2/27 (火)		3/4 (日) 面接試験
	C日程 3/9 (金)～3/15 (木)		3/20 (火) 面接試験
			2/2 (金)
			3/8 (木)
			3/23 (金)